自然教育園見ごろ情報

2026年11月12日号

附属自然教育園 検索

詳しくはＨＰの「見ごろ情報」をご覧ください
https://ins.kahaku.go.jp/

今週はここに注目！

マユミの実がわれました！





ゲンノショウコ（実）

昔から生薬などとして利用され、茎や葉を煎じて飲むと薬効がただちに現れることから「現の証拠（げんのしょうこ）」の名前がつきました。別名は「御輿草（みこしぐさ）」で、タネを弾き出した後の実の形がみこしの屋根に似ていることによります。



コウヤボウキ

明るい林の縁などに生育する低木で、キクの仲間です。高野箒（こうやぼうき）の名前は、細い枝が丈夫でしなやかなため、高野山で束ねて箒に使ったことによります。



アワコガネギク

黄金色の花が泡のように集まって咲くことから名前がつきました。別名はキクタニギクで、自生していた京都を流れる菊谷川の上流地域「菊渓（きくたに）」にちなみます。



マユミ（実）

しなやかで丈夫な材質で、弓の材料として使われたことから名付けられたと言われています。秋にはピンク色の実が4つに裂け、赤い仮種皮に包まれた種子が顔をのぞかせます。





会えたらラッキー♪

メジロ

自然教育園では留鳥として、一年中観察することができます。雑食性で、昆虫や花の蜜、樹液、植物の実を食べます。違う種類の鳥と群れていることもあります。鳥の鳴き声が聞こえたら、是非近くを探してみてください。



ムラサキシキブ（実）

美しい紫色の実を、源氏物語の作者「紫式部」の名前にたとえ、この名前がついたと言われています。



サネカズラ（実）

鮮やかな赤い実がたくさん集まってボール状になります。つやのある色合いが食欲をそそりますが、あまり甘みはないようで、食用にはされません。野鳥にもあまり人気がないようです。



ヤツデ

おしべ→めしべの順で熟し、めしべが熟す時期にはおしべはなくなります。これは、同じ花の花粉がめしべにつく「自家受粉（じかじゅふん）」を避ける仕組みです。7～9裂する掌のような大きな葉が特徴です。

天然記念物及び史跡
科博 自然教育園

©2026　独立行政法人国立科学博物館附属自然教育園